

本年度の未来ファンドおうみ助成金説明会では、申請書の書き方の説明と合わせて、当センターの助成金に限定せずに、「助成金ってなあに？」ということで、広く資金調達について考えていただくことをねらいとし、主に次のことについて説明をしました。

①資金源の種類とそれぞれの特徴について

団体にとってどんな資金が、どの位必要なのかを考える

②助成金を受け取ったことで生じるメリットやデメリットについて

③魅力的な申請書の書き方（審査員の目にとまる）について

④メンバーや会員さんと共有することの大切さについて

⑤不採択だった場合の考え方について

今後の団体が戦略的に発展するためのステップと捉えて、次につなげるという発想に切り替えれば、無駄な作業にはならないということに気づく機会とする。

⑥まとめ

助成金申請をするということは、お金を受け取る以外にも、普段は中々できない団体さんの活動基盤を整える作業にもなる。



次年度も勉強会の開催を予定しています。

ぜひ助成金申請にチャレンジしてくださいね！！



寄付の税制優遇について

公益財団法人淡海文化振興財団への寄付金は、寄付金控除等の税制上の優遇措置の対象となります。

【個人の方】所得税（国税）は、寄付金控除として「税額控除」または「所得控除」のどちらか有利な方を選択いただけます。個人住民税は、滋賀県個人県民税の寄付控除の対象となります。個人市町民税の寄付控除については、対象に該当するか等、お住まいの市町にお尋ねください。

【法人の方】一般の寄付金にかかる損金算入限度額とは別枠で、一定の限度額内で損金の額に算入されます。いずれの場合も、税制優遇措置を受けるためには確定申告が必要です。詳しくは、最寄りの税務署か、お住まいの市町の市町民税担当部署にお尋ねください。

2018年度 助成団体の活動

おうみ NPO 活動基金

仰木地区活性化委員会

採択事業は、「仰木でインバウンド事業 体験型の仰木ステイ」です。仰木地区には、子どもが町に出て高齢者だけになっている世帯が多くあります。そのような家の空きスペースを利用し、訪日外国人旅行者に宿泊してもらいます。ただ宿泊するだけでなく、仰木の人みんなでもてなす！そんな体験型の仰木ステイ事業を行っていきます。この事業により、地域の元気な高齢者の働く場をつくり、楽しみを増やし、お金を稼げるようにすることを目指しています。



また、昨年11月にはフランス人とイギリス人の体験宿泊を行い、大変喜ばれたそうです。仰木には1300年の歴史があり、泥田祭などの小椋神社の例祭や、仰木太鼓という伝統



文化が残っている地域です。美しい棚田があることから農業体験もできます。

このように、仰木の元気な高齢者の方々の力を結集し、一人でも多くの外国人旅行者に最高のおもてなしを提供したいと考えています。

びわこ市民活動応援基金

近江八幡市子育てボランティアわいきゃきゃ

採択事業は、「地域をつなげるあかちゃん食堂事業」です。

本事業は、未就園児とその保護者を対象にして、子育て家庭が孤立することなく地域全体で豊かな子育てができるよう、市民団体や関係機関と協力しながら「あかちゃん食堂」や「遊びの広場」を開催するなど、地域につながる場づくりを目的としています。



あかちゃん食堂では、管理栄養士さんのもと離乳食について悩ん

でいるママの相談にのったり、食堂で使う野菜はできるだけ持参したものを使用して、安心して食べてもらっています。



今年度はあかちゃん食堂参加者のニーズから、お父さんにも子育てに参加してもらえるようパパも対象に、子どもと一緒に楽しく遊んでみんなでご飯を食べる食堂を開催しました。

また、地域の市民団体や行政から依頼があれば、「あそびの広場」を開くなど、地域の子育て支援の輪を広げる活動を行っています。

2018年度 助成団体の活動

びわこ市民活動応援基金

エコツーリズム協会しが

採択事業は、「滋賀まるごとエコツーリズム推進・プラットフォームの構築事業」です。

滋賀県では、琵琶湖をはじめとする自然や歴史・文化を活かしたエコツーリズムの活動が始まっています。

本事業では、滋賀ならではのエコツーリズムを本格的に推進させていくために、地域を活性化させるエンジンとしてエコツーリズム推進プラットフォーム機能の構築に取り組み、エコツーリズムに取り組む団体のネットワークづくりと、人材を育成するための事業の展開を図っています。



地域を元気にする着地型交流ツーリズムの需要開拓等に向け、地域への誘客に結びつく交流プログラムを集約し、全国に情報発信するためのホームページも開設し、地域の団体と連携して参加者の新たなニーズに応える商品やサービスを生み出していきます。

びわ湖の日基金

滋賀大学「環境学習支援士」会

採択事業は、「未来のびわ湖人育成のための学習支援事業」です。本事業では、県内の小学校5年生を対象に、フローティングスクールの事前・事後学習を行うほか、一般募集の親子を対象に体験講座「身近な川の自然体験」を実施しています。

「うみのこ」出前事業実施の背景としては、学習船（うみのこ）の宿泊体験学習の前後に行われる予習と復習については、各小学校での自主計画によって実施しているが、担当の教員は時間的に余裕がなく困っている実情があります。



このような状況から滋賀大学「環境学習支援士」会では「未来のびわ湖人材育成講座」のプログラムを開発し、県内の小学校に出前講座を提供してきました。びわ湖の歴史やその変化と未来の問題を考えるこのプログラムの提供を通して、自分で考えて行動する未来のびわ湖人育成を目指しています。

2018年度 助成団体の活動

笑顔あふれるコープしが基金

認知症カフェ「なごみ」実行委員会

採択事業は、「認知症カフェ『なごみ』実行委員会」です。本事業は、地域の高齢者と家族を対象にして、認知症カフェでの語り合いをはじめ、歌やゲームや作品作り、介護相談などを行い、「高齢者が集える場所」「認知症本人と家族が安心してくつろげる居場所」「家族から相談が受けられるところ」を事業の目的としています。



認知症カフェは、1か月に1回開催しています。13時30分から15時30分までの120分、参加者とスタッフが5～6グループに分かれ、ゆっくりとそれぞれのペースに合わせて、介護相談、ゲーム、手芸、臨床美術などをメニューにして自由な話し合いをしています。認知症に関わる人々が安心してひと時を過ごされることで、地域住民が認知症を身近に理解してもらえると考えています。

げんさん食育NPO基金

Mom's fun

採択事業は、「食でつながる地域の居場所づくり」です。本事業は、当団体とボランティア（少し先行く先輩ママやおばあちゃん世代）が、未就学の子育て親子を対象に、食・遊び・交流の場を通して、子育ての悩みを相談したり情報交換などを図る場を提供することで、保護者同志や地域の人とのつながりを深めています。月2回、市内公共施設を借りて予約制で「みんな



の○○Cafe」を開催しており、旬の野菜を使ったスープをボランティアスタッフが作り、みんなと一緒にご飯を食べます。そのあと、新聞遊びや簡単なクッキングなど、親子で楽しみながら参加者同士が交流できる遊びを提供します。ボランティアスタッフに地域のおばちゃん世代や先輩ママに登録してもらうことで、多世代が気軽に交流できる場を目指しています。

お問い合わせ先 淡海ネットワークセンター（公益財団法人 淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20（ピアザ淡海2F）

TEL：077-524-8440、FAX：077-524-8442

E-mail:office@ohmi-net.com

